

しかけたが途中で失敗し、折り取っている。文字は四文字分残るが
釈読できない。

なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏、馬場
基氏、山本崇氏、及び島根県立博物館の平石充氏のご教示を得た。

9 関係文献

島根県教育委員会『大津町北遺跡・中野清水遺跡』（二〇〇四年）
島根県教育委員会『中野清水遺跡（2）』（二〇〇五年）

（久保田一郎）



くさど せんげんちよう 広島・草戸千軒町遺跡

- 1 所在地 広島県福山市草戸地先
- 2 調査期間 第五〇次調査 一九九五年（平7）一〇月～一二
月
- 3 発掘機関 福山市教育委員会・福山市埋蔵文化財発掘調査団
- 4 調査担当者 畑 信次・戸田和吉・高田莊爾・佐道弘之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀中期～一六世紀初頭
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今回の調査は、芦田川左岸の河川敷における新法音寺橋の橋台及



（福 山）

び橋脚建設に伴うものである。調査地は常福寺（現明
王院）の門前にあたり、遺
跡包蔵が確認されている中
州北半の東側に位置する。
橋台部の東調査区（二八m
×九m）と、橋脚部の西調
査区（一二m×九m）にお
いて調査を実施した。

その結果、両調査区において、掘立柱建物・溝・土坑などの遺構が検出され、土製品・木製品・金属製品・石製品などの遺物が多数出土した。

木簡は東調査区北半の東西溝SD〇〇六から出土した。SD〇〇六は幅二・五mの溝で、北側に杭と粗朶木による護岸施設が施されている。溝内の黒褐色砂質粘土層に土製品をはじめ、木製品、貝類が多数含まれていた。出土土器からみて一五世紀を通じて使用されていた溝と考えられ、性格としては、町割に関するもの、灌漑用、小運河などが推定される。

また、木札状木製品一点、刀子状木製品二点も出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「大般□」

・「二斗」

(38)×17×2 019

長方形の板目材の上端を圭頭にしたもので、下部は欠損している。「斗」は数量を表す単位であり、「大般□」の三字目は草冠と考えられ、「大般若」と推定されることから、仏に供えた穀物類二斗の付札の可能性が考えられる。

9 関係文献

福山市教育委員会『草戸千軒町遺跡』（一九九七年）

（畑 信次）

